

山形県教育委員協議会の概要

1 日 時

令和8年6月10日（水）14時20分～15時04分

2 場 所

山形県庁舎教育委員室

3 意見交換テーマ

ネクストハイスクール構想を踏まえた今後の高校教育のあり方について

4 主な発言要旨

- ◇ 新潟で行われた北部ブロック道県教育委員協議会（以下、「協議会」という。）では、各道県ともに産業人材不足という課題を持っていると感じた。高校卒業後に本県を離れる生徒も多い中、産業系の高校の機能を強化し、専門的な技術を習得した生徒が地元に残ってくれる仕組みを作ることが本県の産業人口の底上げにつながっていくのではないかと。（和田委員）
- ◇ 協議会では人口減少や県外への人口流出、私立学校へ人が流れてしまうことが課題であるという話が出た。地元企業は大卒を採用するよりも専門的な技術を身につけた高卒を即戦力として欲しがっているという話もあった。こども達が自分のやりたいことを見つけられず大学まで進学し、結局、県外で過ごすこととなるというケースはよく見られる。キャリアを考える上では、保育園、小学校の頃から地域の企業や進学先の候補の学校と交流できる環境づくりが重要ではないかと。（丹治委員）
- ◇ 文部科学省が設定した先導拠点の3つの類型同士のつながりがよくわからず、対処療法的と感じている。また、交付金を人件費に充てられないとすると、今後の高校教育のあり方を考えるのは難しいのではないかと。今後、国がどのような形で進めていくのか注視していく必要がある。（手塚委員）
- ◇ 今後の高校教育のあり方で最も重要なのは、生徒が自分のやりたいことを見つけられるような道筋を示すことである。岩手県にインターナショナルスクールがあるが、そこでは社会に何らかの分野でイノベーションを起こせる人材を目指して教育を行っていると聞いている。本県でもイノベーションを起こせる人材に限らず、生徒が何らかのやりたいことを見つけられるようにすることをポイントの一つとして教育をしていくべきではないかと。（小関委員）
- ◇ 先導拠点となった学校を中心として、その他の学校がその取組みを応用できるようにしていくことが重要と考える。小規模校の多い北海道では、昔から遠隔授業に取り組んでおり、今後は道内全体に配信することも考えているそうである。

こうした取組みは自宅やオンデマンドで好きな時間に授業が受けられるといったことが望まれる時代であるので参考にすべきである。(工藤委員)

◇高校での教育において、「学んだことを生かして仕事ができる」、「あの企業はこんなスキルを求めている、これくらい稼げる」などの地元で働く具体的な道筋を意識させないと、懸命に育てた人材が県外に流出してしまうこととなる。人材確保に向けて学校側と企業や大学との連携が重要と考える。(工藤委員)